水産生態学特論（2単位）

担当者氏名　千葉　晋

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

近年、様々な水産有用魚種で、資源量の著しい減少が報告されており、世界規模の経済問題となっている。この講義では、水産をベースとした応用生態学を扱い、漁業活動による水圏生態系の歪みとその解決策について、最新の知識を教授する。個体群生態学、群集生態学、進化生態学的視点から、保全および水産資源問題およびそれらへの対策について聴講生との議論を通して考察する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

個体群　　群集　　進化　　生物保全
生態系保全　　生態系サービス　　持続可能な漁業

◆授業の進行等について

	テ　ー　マ	内　　容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	漁業生産の現況 （第1～2週）	• 世界の漁業生産の概説 • 日本およびオホーツクの漁業生産の概説	◎本授業ではケーススタディを多く含めながら話題を提供し、講義ごとに議論を行う。 ◎復習を重視するため、課題を課すことが多い。予習に関しては、各講義の後に指示をする。
2	生物多様性 （第3～4週）	• 遺伝子、種の多様性 • 個体群、群集、景観の多様性	
3	生態系サービス （第5～8週）	• 生態系サービスの概念 • 生態系サービスからみた漁業	
4	漁業と生態系 （第9～11週）	• 生態系サービスの測定	
5	漁業と生活史 （第12～13週）	• 漁業に起因した生態系の改変 • 漁業に起因した生活史変異	
6	保全 （第14～15週）	• 資源管理 • 海洋保護区	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）
書名／著者／発行所（発行年）

生態系サービスと人類の将来 / Millennium Ecosystem Assessment / オーム社（2007年）

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等
書名／著者／発行所（発行年）

講義ごとに関連図書等を紹介する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

出席点とレポート点で評価する

◆オフィスアワー

月～金　12:10～13:00

◆その他受講上の注意事項

英語資料を多用する。